



やっぱり…家に勝るものはない…

Sばあさんはとの付き合いはもう数十年になる。

その間、夫と一緒に看送り、1人暮らしになってからは更に認知症が悪化し、持病の糖尿病に高血圧、心不全と1年半のうちに何度も三途の川を渡りかけたため、ケアホーム希望の「泊まり」のサービスをずっと利用していた。点滴や、血糖のコントロール、食事への配慮等で元気になったSばあさんの口癖は「私はどこも悪くないのよ！」と急に食欲が旺盛になったり…医者ですら何なのかわからないと言う。

同利用者が病院から退院し、ケアホーム希望で「泊まり」のサービスを利用後、在宅復帰し家に帰る人たちを見るたび「私はいつ家に帰れるのよ！」と、日々帰宅願望が強まる。

夜中に突然「家に帰る！」と外に飛び出ることも度々あった。1人暮らしで認知症、更に糖尿病でインシュリンを毎日同じ時間に投与し、下肢筋力の低下でふらつくこともある。常に見守りが必要な状態であるSばあさんの記憶の中には、夫は医者、看護師、介護職が毎日訪問で入り、家で看取ることができた事が何よりで、自分も「最期まで家で暮らして死にたい」が口癖である。

1年半もの間、家に帰っていないSばあさんを帰すことの職員の不安は大きかった。

しかし、本人の望みを支援しようと1ヶ月もの間、家の大掃除から住宅改修、ご近所の方々へ見守りの支援をお願いしてまわった。

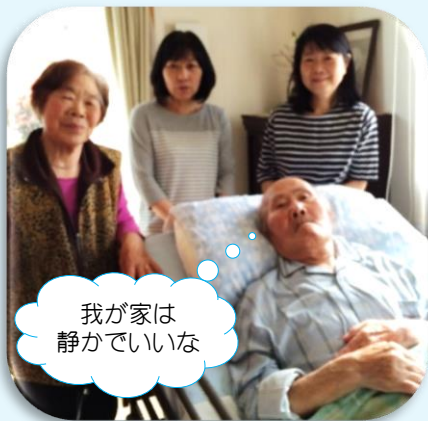
どんなに素敵な旅行に行けたとしても自分の家に帰ってくるとホッとするように、Sばあさんは満面の笑みで家に帰る事ができた。

1日に何度も生活援助のため、介護職が訪問したり、毎日同じ時間に看護師がインシュリン投与のために訪問したりと、私たちの訪問回数は増えたが、Sばあさんは職員の不安をよそに毎日自分らしく

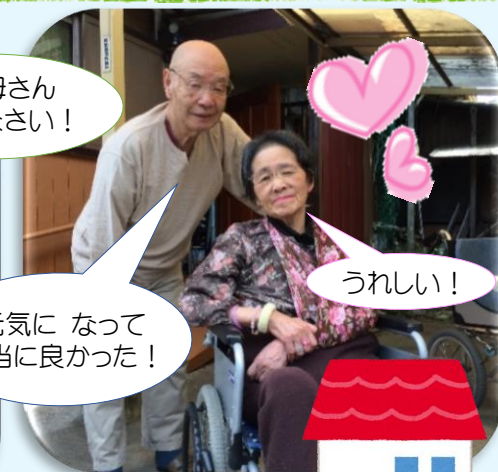
「いま、を自由に過ごしている！



皆さん、元気になって ご自宅に帰れました！



ご自宅で嬉しそう！



若者なんかに負けない老人パワー！

最近『ケアホーム希望』には、病院や長期療養型施設、介護老人保健施設から利用する人が増えてきた。受け入れ前に施設へ見学に行くと、おとなしくデイルームにいて何をするでもなく、テーブルに顔を伏せ立ち上がらないように抑制ベルトをされ車椅子で過ごしている。表情もなく、静かにボーっとしている人が多い…。

‘生きているより…生かされているように感じる、と言ったら反論されるかもしれないが…。

利用開始直後は表情も硬く、笑顔もほとんどなく過ごされていた利用者さんも通い慣れてくると自然と笑顔にもなってくる。

『ケアホーム希望』の利用者はなによりもよく笑い、良く食べ、本当に元気だ。人は「何かおかしい事や変だ」と思うことがあってもそれを口に出して言わない人が多い。それが原因で精神的ストレスとなり、体調を崩し、病気になることさえある。

『ケアホーム希望』の利用者は思ったことをすぐに口に出す。時にはそれが原因で利用者同士のケンカになることだってある。

しかし、その数分後には一緒に笑ったり、食べたりと、本当に感情表現が激しい。感情を素直に出せる環境づくりこそが大切だと思うし、そうした自己主張ができることが元気の源にもなるのだ！



菖蒲湯で無病息災！



菖蒲湯に入って
101歳まで勝負だ！



菖蒲は昔から、病を遠ざける効果があるものとされ、菖蒲の葉を頭に巻くと賢くなるとも言われ、**血行**を良くしたり**神経痛**を和らげる効果もあり、健康には良いと昔から言い伝えられています。



みんな大好き！美味しいあんみつを食べに出かけました！

私たち…
食べてる写真ばかり
じゃない??



俺の分まで
食べないでよ

私も食べていい?



あんみつは
本当に
美味しいねえ～



HAPPY BIRTHDAY!
祝 83歳 お誕生日
おめでとうございます!



私にも
火
消させてよ



ケーキ美味しい…
毎月誕生日の
人がいれば嬉しい

私たちまで
ケーキが
食べれて嬉しい!